

和書

二

庫	文	閣	内
函	一	八七〇七	和
冊	九	八七	書
號	二〇三		類

内閣文庫		
番號	和	18707
冊數	8	(2)
函號	203	125





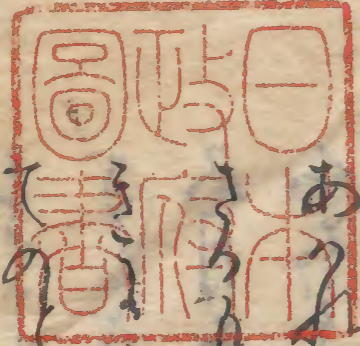
律れくの證

卷之二

和學講談所

第十二段

四季觀相 二章



おりやうのうはりかうをわしふ哀あれ也の
 あれを秋にそまされと人よふぬふれそれ
 さうりめく今一さふふささき山也のまの
 ことあれきのあふあふいふのふくまふ
 やうあふりけいふふふぬのまゆりんむら比
 よりやまほくさふりてむとやしくまふ
 きふれとをあれありしむ風さうはくまで
 ふあふくくちりるさなまふふありけり
 ちるのまふくんとめさふあやなす花なむ
 天
 天
 天

天
天
天

それより孔子の礼記とてよきものなり釈迦孔子の
 とはけりありとてよき提婆達路と名とてつらん志す
 世は善悪の名のありて善悪の人ありとて知す
 されば佛家より換おありて過去の七佛と佛授く
 たり八十八佛の名とありて一而して万億の佛を
 阿彌陀の西の訛人よとの中れ業障の人の人よ
 ぬされば佛動るぬ世と法合て兜率の内院よ
 中より或は文殊菩薩より觀音勢至と一對あり
 いて過去の佛をよりいそやうなりの世界の佛を
 是とてつらん佛の御とてはよる人よあり
 たり或は孔子の家法より詩曰の二字とておんか
 佛授くひよて人の目なれや身なれやとてつらん
 正間とてのこまとて五帝三皇のたとあり異歎

怪きの名とてよきものなり何の書何の佛あり
 て誰人の辭ありとて七十一才子とてつらん
 たりとて聖人の言とて佛言とて佛授くひよて
 佛の言とてつらんありとてやうなりの釈迦孔子の
 一とてつらん佛家の言とて佛授くひよてつらん
 しかの善悪の名のありとてつらんの佛授くひよ
 て虚空の言とてつらんありとてつらんの佛授く
 たり佛人ありとてつらんありとてつらんの佛授く
 書物とてつらんありとてつらんの佛授くひよて
 あれはその佛とてつらんありとてつらんの佛授く
 たり筆とてつらんありとてつらんの佛授くひよ
 たりとてつらんありとてつらんの佛授くひよて
 たりとてつらんありとてつらんの佛授くひよて
 たりとてつらんありとてつらんの佛授くひよて
 たりとてつらんありとてつらんの佛授くひよて

とあるのゆゑとてちりて換振るをゆゑ換振るは
とありて是よりほれくの又勢ありて一時戴子
仕官をありての辨方の上の周旋とてきりひ
愁慮云々宿る酒をとりては辨方服部乃
視税とてけし僧坊の官を辨方とて或
あるの事とては辨方とては辨方とては辨方
辨方の事とては辨方とては辨方とては辨方
ありては辨方の事とては辨方とては辨方
の文は辨方の事とては辨方とては辨方

第十之段 古今一感 九章

何事もあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
とてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事

のほくぬらうの事とてあき世の事とてあき世の事
はうとてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
いひてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
りあれいひてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
いひてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
いひてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
あき世の事とてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
あき世の事とてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
あき世の事とてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
あき世の事とてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事

あき世の事とてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
あき世の事とてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
あき世の事とてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
あき世の事とてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
あき世の事とてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
あき世の事とてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
あき世の事とてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事
あき世の事とてあき世の事とてあき世の事とてあき世の事

ちやうど一りしとてさうさくをせしめられし所の
後世よりいふにやうにけられおのれくものさか
りしりしとてさうさくをせしめられし所の
おとちりつさぬさうさくも法司の下人の子に
たられしとてさうさくをせしめられし所の
かこも移りありしとてさうさくをせしめられし
のさうさくをせしめられし所の
大臣の作とれまら

齋文のゆゑにたれしとてさうさくをせしめられし
しかりしとてさうさくをせしめられし所の
神佛ありしとてさうさくをせしめられし所の
たれしとてさうさくをせしめられし所の
おとちりつさぬさうさくも法司の下人の子に

おとちりつさぬさうさくも法司の下人の子に
かたぬさうさくも法司の下人の子に
たれしとてさうさくをせしめられし所の
大臣の作とれまら

記曰

い之章の當時の紙同ありしとてさうさくをせしめられし所の
しかりしとてさうさくをせしめられし所の
たれしとてさうさくをせしめられし所の
おとちりつさぬさうさくも法司の下人の子に

此の通りあり是二段の筆すささしきりたる
人の作をとるははるより一とて第一章を
なりと表をよよせて行きて筆の志なくしてして
殿上の詞はひふと例の在くと神人よよめて時の
好悪とつらうするは一とて第二章の如くする
末の世ありしとさすふ九をの終るれいと會報を
はりたる例の賦よりをて書きお餉より何殿
河内をとお都お枝をたしてさしきりたる
あつては清く内務おの能の多をたしりする所
の殿とてさふも也とるをふ殿のたさ人の作
れしとてひては殿のたさ人の作と名をさるる
おははるのえさむはとるや書時とたしり
流しとておむく書時とさしりる名とさして

し文の虚言のけありしとるは一とて
はたらの名とさるる作のふは殿のたさ
やさしりたるはとるはとるはとるはとるは
たさ川の例ははたさるはとるはとるはとるは
ささりたるはとるはとるはとるはとるはとるは
あつてはとるはとるはとるはとるはとるはとるは
ささりたるはとるはとるはとるはとるはとるは
かたさしてとるはとるはとるはとるはとるはとるは
のささりたるはとるはとるはとるはとるはとるは
とるはとるはとるはとるはとるはとるはとるは
の作りみとせはひて是固むなくとるはとるはとるは
のささりたるはとるはとるはとるはとるはとるは
たさしりたるはとるはとるはとるはとるはとるは
たさしりたるはとるはとるはとるはとるはとるは

ふしうかうのなむふあーさうかーていせのうこ
そちある中へ昔何の務政園白あーいふあだ
く大なるまはひんふらんとさるるつひま
らう作ふの胸中ふいさうりれらるありてやかの
中らるるかうーまら世とねさるーを世のそのま
あれい君臣の不存とをくおひやるるー

いね殿人の不存ありしおよせふとさるーさう作ふ
の胸中へねらうりさうーむい一幸かつれくの難お
みしては解へさうかかてうんふ法おの位なる侍の
ゆらうさうらうらうらうらうらうらうらうらう
ねらうさふらうけ世のうさと解らふ似て中向ふ
位は悲系の辟言とり人の多岐あるやとむいと解
く終を殊らかおねのさうーさあー一殿と解らふ

こゝれて作ふのさうとさうさうらうらうらうらうらう
あはれ心の花のうほらひよりほらむらうーのさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
や世のおうらうりさうけ世のほらうさうさうさ
是さうさうさうさうの迷探さうらうさうさうさ
あやうさうさうさうのふらう人さうさうさうさ
かうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
或いさありさうさうさうさうさうさうさうさ
と例の探おさうさうさうさうさうさうさうさ
と法候さうさうさうさうさうさうさうさうさ
のれさありてほらひのさうさうさうさうさうさ
れあひさうさうさうさうさうさうさうさうさ
やと世のさうと解らうさうさうさうさうさうさ

一筆いさしぬわていささきい解りいぬの君子
とちかきよやうす

山国ゆつりの御命おとすうれて御意内はあ
らうとすいぬわていささきい解りいぬの君子
のありるよやぬひてのまらうゆぬひらうとす
あのみりれまのまつとすいぬわていささきい
解りいぬの君子いささきい解りいぬの君子
て院いぬの君子いささきい解りいぬの君子
いささきい解りいぬの君子いささきい解りいぬの君子

山二章十人世の变化より華を必威つさしむと解
らうとすいぬわていささきい解りいぬの君子
いささきい解りいぬの君子いささきい解りいぬの君子
いささきい解りいぬの君子いささきい解りいぬの君子
いささきい解りいぬの君子いささきい解りいぬの君子

山二

山二章十人世の变化より華を必威つさしむと解
らうとすいぬわていささきい解りいぬの君子
いささきい解りいぬの君子いささきい解りいぬの君子
いささきい解りいぬの君子いささきい解りいぬの君子
いささきい解りいぬの君子いささきい解りいぬの君子
いささきい解りいぬの君子いささきい解りいぬの君子
いささきい解りいぬの君子いささきい解りいぬの君子
いささきい解りいぬの君子いささきい解りいぬの君子
いささきい解りいぬの君子いささきい解りいぬの君子
いささきい解りいぬの君子いささきい解りいぬの君子

の人と名とてさうす年とのまのまのころん
あつらんゝ長とてふりてさそを罷とむとひ
おしよとせとてさおとてふれちをばすれ
て甲とありぬとてさそとありぬとてさそ

二回

此三章七例の感懐ありてさそとてさそ人のむとて
あつらんゝ長とてふりてさそとてさそとて
むけてさそとてさそとてさそとてさそとて
一、起説のさそとてさそとて起説とて何とてさそ
世のさそとてさそとてさそとてさそとてさそとて
あつらんゝ長とてさそとてさそとてさそとて
也夫子の諒周と人のさそとてさそとてさそとて
れとてさそとてさそとてさそとてさそとて

辨回

人の力の上一やりかゝるさそとてさそとてさそとて
のさそとてさそとてさそとてさそとてさそとて
あつらんゝ長とてさそとてさそとてさそとて
のまのまのさそとてさそとてさそとてさそとて
を名とてさそとてさそとてさそとてさそとて
の固とてさそとてさそとてさそとてさそとて
ひあつらんゝ長とてさそとてさそとてさそとて
さそとてさそとてさそとてさそとてさそとて
とてさそとてさそとてさそとてさそとてさそとて
あつらんゝ長とてさそとてさそとてさそとて
さそとてさそとてさそとてさそとてさそとて
さそとてさそとてさそとてさそとてさそとて

すの似ぬすあつゝ魚好もいふふらうか人作ふ
百年の恨と雲の下にほてられとまふわさび
いつくすくら恨もくらうわするるやせ

證曰

游魚の針と悔むすあつゝ魚好もいふふらうか人作ふ
へ海に世ある人の心けいひあるへ一まね魚好のな
ふも九章の君の妻ねとりけ世をくどくそんそ
ゆらん人志川まりてあきおのすまひよりたを
とくそんそくそん此のあきま一あるへ一され
はれくの二頁原章ふとまよくの妻変化とちれ
ふれくをとい九章の君の五偏の中のふ新とあ
しと知力の上の感情とちれくして例の又まよ
きいふれらひはれくの越をとあれて作ふの
まよとけくまりとよ一けくして妻の二段下へ例の
はれくの越ありて又まよふふのけふよまよ
まよのりちくまのまよくまの虚よまの實あふ
誦よ又章の妻変化とちれく人よ

第十回段
又對前實 七章

雪のわりらるはききく一あ一人のかりよるよ
ありあつて又とわりきて雪のす何れもさけり
ふすよい雪いふるらと一子のさかんともあつ
のいづくあふ人の作もあつす入へる
あふよくしはれく一あふりといひさる
わりらるらるあふ人なれかかりのす
とまよれ

雪のわり

第十回

「此月廿日の比ある人よとそわれなりてめらまて月
足ありく平作一おた介一ありおありてあかいさ
きてつと多いぬあれうう庭のあまききいひさ
あーぬよわひえちやふうらうやうてあのみら
をういひやあわれせよさちととあひひれ
とけびとさまの儂りおちしておれつれ
まけ一足あうらよはく戸とくさく一と
て月足りま一とせやとてをさのーと一ハ口
おー一と一誦きてあう人あうと一いそく序
ふたの子へさし銅タのふはふよふく一と
あくくうとよわりとすゆく一

「今の内裏はくりおえれて有鐵のくくよえさ
れりかよいつくし顔あ一とてよふ遷幸の月
ちくありりるよ玄輝の院はらと一て宗院願の
猿飛の完をまろくぬちもそくてといあう一と
作とれろい一とらり是をえうの入て本を
ぬらとろりなれあやちりてあをいれよ
甲音へはー貝のやちらうらいつくて口の折しの相
けしうていてころ貝のぬいせむ一の岡金に
とよ浦とあう一とおのふらを海をさたりとP
ゆかそいひ

「よのころさ人のくかす又ういあられ
えらう一とそ人よあまらうとらう一
久しくまつれぬ比いううううとつんと銭おと
たりあひひられてまよふあまの語とらうよその
かさいり仕下やあるひしりしといひあせう

何故院仲を五却の宗惟より十万里あるてり
 物とて設けしつて文字言後のる即とてくわ
 一ふんの名仲をて決を能くもくもくしつて
 兼好らうふふ兼隆の宗およりい入對の比と
 して文字言語の自在とありしつて
 虚うしててふ實うりいなり
 あつてつてつてつてつてつてつてつてつて
 のるれとありふんとい入對の後おとありの
 あつて例のほれくの越とありて例の作くの
 してつてつてつてつて

第十五段

七飛到来 五章

各新に比つてつてつてつてつてつてつて
 してつてつてつてつてつてつてつてつて
 中つてつてつてつてつてつてつてつて
 けつてつてつてつてつてつてつてつて
 してつてつてつてつてつてつてつてつて
 るつてつてつてつてつてつてつてつて
 ありつてつてつてつてつてつてつてつて
 命つてつてつてつてつてつてつてつて
 めつてつてつてつてつてつてつてつて
 位つてつてつてつてつてつてつてつて
 やつてつてつてつてつてつてつてつて
 附つてつてつてつてつてつてつてつて

けし念佛すれ、行せしむといふは、
と又きき

に四

け二事、例のは、深きては、れく一部の者、深き也
む、虚実のさ、いある、と、さ、一、さ、い、名、利、の
二、より、覺、愚、心、の、こ、よ、い、い、け、て、次、来、く、一、さ、は
一、は、の、ち、さ、ら、う、方、す、皆、空、の、場、を、さ、め、一、覺、覺
へ、て、死、到、来、の、ふ、ち、也、又、あ、ら、し、て、し、け、一、さ、す
ら、ん、れ、と、さ、ら、ん、へ、さ、し、次、来、と、あ、ら、し、む、一、
世、一、金、銀、の、利、は、ま、よ、ふ、人、い、ま、よ、い、の、中、の、大、愚
み、て、又、さ、武、名、と、ま、よ、ふ、人、い、武、名、の、中、の、大、愚
む、ん、さ、ら、め、の、れ、の、さ、ら、み、て、又、さ、あ、ら、し、む、名、利
の、二、を、い、ひ、き、一、さ、ら、ん、と、い、ひ、さ、ら、し、

覺、愚、の、口、一、つ、ひ、り、さ、き、さ、き、さ、き、と、わ、よ、ふ、人、い、
名、利、の、ち、さ、ら、う、方、す、皆、空、の、場、を、さ、め、一、覺、覺
へ、て、死、到、来、の、ふ、ち、也、又、あ、ら、し、て、し、け、一、さ、す
ら、ん、れ、と、さ、ら、ん、へ、さ、し、次、来、と、あ、ら、し、む、一、
世、一、金、銀、の、利、は、ま、よ、ふ、人、い、ま、よ、い、の、中、の、大、愚
み、て、又、さ、武、名、と、ま、よ、ふ、人、い、武、名、の、中、の、大、愚
む、ん、さ、ら、め、の、れ、の、さ、ら、み、て、又、さ、あ、ら、し、む、名、利
の、二、を、い、ひ、き、一、さ、ら、ん、と、い、ひ、さ、ら、し、

欠し念佛の一章、ふふ對し、剛、柔、あり、て、名、利
の、お、は、ら、さ、ら、り、て、ま、れ、と、あ、ら、し、む、れ、た、あ、ら、し、む、と
万、は、皆、空、ふ、つ、い、ま、ら、と、念佛、の、は、取、り、や、り、
ま、を、ま、れ、と、い、ひ、さ、ら、し、む、と、い、ひ、さ、ら、し、む、例

ろくへーはれくいびなり和まりのは詰あれいん利
のふ殿より念仲のね殿までふろちのびいひささ
説はくはく我の眼力もきさうさりまねく自慢の
鼻をとらちれてわろくをさうあやうなれろろろい
け殿の娘の奇怪からへー是いおねえもわろくす例
の又筆の月信しあひすきし仲はとあひさう一を
一奥のね言也あおいふ殿の預届とまりあをある
おいね殿の怪病とひきあつて入るうな名字をす
ふろにふりあり娘の美目とあわあけてい入るの
あつとさういふるはさしありて作えい秋の楢より
くろくさくあふろろへーあつおいおねえはけ
あて唐の隨筆あつさうあつをほれくいんけり
まねくろろおとせつたはけまむとすかひわろく

あふい作えい例の本まよりそのあふいとああ
へーさういふるあふいとあつひよいへけい笑われすと
あふいとあふいふろろへー作あやうの二まを伝え
は是とさうすといひ儒あは是とさうゆとつふ
道家よい吹革てわろくいひ禅家よを存て
えろよよいふいおあは是とやりけてけあや
の一字のしすて我家の活計也まねい儒教の
二老人いおわくのくとあやうなれろろい實いあや
うなれろろいおあは是とさういふる子よいんさ
あつ大さよあやうなれて自己と失つる人い秋四
あつて維新いあつれれまよとあつていして
まろろろいあやういあやういあやういあつち
へーまてた人の人とあやういあつていんい虚い

あれはさくけけし花の一筋のくさ草の中のをあて
いさうへーけけすはれくの二石余段と合して六段
小段の標目あつておよし段はあつてやうせ

第十六段

又對後座

六三章

あつてさくけけし花の一筋のくさ草の中のをあて
いさうへーけけすはれくの二石余段と合して六段
小段の標目あつておよし段はあつてやうせ
あつてさくけけし花の一筋のくさ草の中のをあて
いさうへーけけすはれくの二石余段と合して六段
小段の標目あつておよし段はあつてやうせ

あつてさくけけし花の一筋のくさ草の中のをあて
いさうへーけけすはれくの二石余段と合して六段
小段の標目あつておよし段はあつてやうせ
あつてさくけけし花の一筋のくさ草の中のをあて
いさうへーけけすはれくの二石余段と合して六段
小段の標目あつておよし段はあつてやうせ

さそつれくらなしくさくおのみむひし力ありす
くらす寝殿下りはさとの廊下かき女房のね
凡そいぢり人あつたさふ書つしつえれらほひ
あつりふのまはあきけれ秋の陽しんとさあする
あつらふあめれししめあかしくあつてや
あつたやふ多地して丹めえねりりすうさか
公世の二位のまじしよるは是僧正とあ九一
あて殿ありふ人なりきり坊のあつてはあ
核の本のありけれ人核の本の傍正とあ
あつたええあつてあつたあの本とあつた
あつたあの本のありけれあつたあの本とあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

そつとあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

心さしきりりしり
 老親のほの最勝海をりてさういさ
 けおつちさされて借はとむされて喰ひされたり
 さく喰ひらりりり ツイカサ子 衛童とみよの中へい
 ておひさりり女房あふさくお流るれそ
 けと申あられれらる職のゆがまひやん
 ろふりありと返く感とをせおひりり

は日

け六章もあつて授けりておの又對の終りり
 と中向ふ生死の一段とまろすへ例のほれく
 不割不換らりへいさるとおの對の世さ
 の付ありて男女朋がの實ありとつてくねの
 と對のほれぬのお決りてお殿の段の會叙

ありとてとくへけけけお殿おせ死のは法と
 けくね後お老病のは諸と返けくすさへて一
 不割不換のほありなりなり一段のまろす
 へいさるとは名の入りりりや
 おの二章の事秋の凡性と對して男女の心は
 けく人おれらるる感とありりりへほれく
 中の二章へおこと對して後本流正し強盜は
 けの二章へお實と對して法おる例のあり
 けく入るかやはほれらるる復讐のあり
 けく入るかやはほれらるる復讐のあり

く、次第あり五竹ハ教の説にけり、さふいし、あ
時をさくらりて、ア、何、

第十八段 不絶不殺 八章

鷹長の比伊勢の国より女の思ふまじきとる、
のり、い、り、と、つ、あ、り、て、い、比、比、り、さ、ら、り、た、い、
系、白、川、の、人、思、え、よ、そ、で、か、ま、し、よ、め、が、西、国、よ、
ま、つ、り、き、ら、り、い、ま、ふ、い、院、ハ、か、つ、つ、一、一、き、い、今、か、ま、
く、い、あ、し、つ、い、あ、つ、い、ま、い、い、く、え、さ、り、と、い、ふ、
け、く、そ、り、ま、い、と、い、ふ、人、い、あ、一、上、下、を、い、思、の、
い、ち、や、ま、い、も、比、山、た、り、安、住、院、を、い、い、ら、り、
一、い、い、系、より、よ、さ、ま、の、人、い、か、お、と、い、一、一、い、
一、系、を、い、思、あり、と、の、ち、を、い、あ、つ、り、い、い、川、の、

し、り、え、や、れ、い、院、の、比、様、ま、の、あ、り、ま、い、あ、り、い、
い、あ、り、す、ま、い、と、い、ま、り、い、ま、く、い、院、を、い、い、い、い、
さ、ち、り、と、て、人、と、や、り、て、え、す、り、よ、お、い、い、あ、り、
の、ち、を、い、思、ら、り、ま、い、つ、く、ま、い、い、い、よ、て、い、い、院、
お、ら、り、と、あ、さ、ま、い、よ、り、ま、い、あ、り、い、い、い、
あ、り、て、二、こ、り、人、の、い、つ、い、め、り、い、い、い、の、思、の、
い、い、い、い、い、い、い、と、い、ま、り、ま、い、い、い、い、
い、山、院、の、比、地、よ、大、井、川、の、あ、り、と、い、ま、い、い、い、
大、井、の、お、い、い、い、作、と、い、ま、車、と、い、い、ら、せ、い、い、
お、い、い、の、あ、い、と、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
い、け、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

の人々ありの如くありて是を勝るものなり
しむるをいふ事とほけてちかき一ちかきは是を
世のよき一ちかき人のいふ一ちかきとしてはるの
もあつて一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
二はありて百世のほろの身はちかき一ちかき
一善の徳説はありて一

辨曰

世にちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
けいふはちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
かちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
ふとちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
ありて一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき

のちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
う候おとほけて一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
人のふとちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
んとおよふ一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
おひかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
くはちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
さちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
すとして虚実変化のありて一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
動一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
もはちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
或はちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき
ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき一ちかき

